KUSOGAKIJIMAV

眠る一花を
抑えつける少年たち

ぶるん

ん…
もみ
むにゅ
むにゅ
むにゅ
もみ

ええっ？
え…
もみ
むにゅ
むにゅ
むにゅ
もみ

ちょっと君達
何してるの!?
こらっ
離しなさい
やめなさいってば
コリ
コリ
くり
くり

この子達…
聞く気がないのか
それとも
通じてないのか…
ふーっ
ふーっ
ぐくっ
ぐくん
コリ
コリ
くり
くり

こ〇もと思えない力の強さで
逃げる事も叶わず
下手に暴れても何をされるか
分からない
かと言ってこのまま無抵抗でいる
わけにもいかない
解決策を考える
一花だが…

男の子だからおっぱい好きなのは分かるけど
無理やりこんな事したらダメなんだよ
コリ
コリ
コリ
コリ

っ…ちょっと
んっ
く…
乳首は…ダメだって
びく
びく
レロ
レロ
レロ
レロ
ちゅぱ
ちゅぱ
ちゅぱ

んっ
んっ
ちゅぱ
ちゅぱ
ぷっ
ぷっ
ぷっ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ

ダメダメっ…
それ以上は…
あっ
あっ
ちゅぱ
ちゅぱ
ぷっ
ぷっ
ぷっ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ

やっと…終わった
ふーっ
ふーっ
もう少しでイク所だった…
じわ…

一花はこの時
気づいていなかった
子〇もにおっぱいを揉まれ
吸われるという衝撃の裏で
自分の脚に子〇もの一物が
擦り付けられていたという事に

そこまでしちゃうか
えー…
ビキ
ビキ

こ〇ものやる事とは言え
これはさすがにやりすぎでしょ
ふーっ
ふーっ
ぬっぽ
ぬっぽ
ずちゃ
ずちゃ
ずちゃ
ずちゃ

これはお姉さんが叱ってやらないと
この子達の為にも
ふーっ
ふーっ
ぬっぽ
ぬっぽ
ずちゃ
ずちゃ
ずちゃ
ずちゃ

えっ!?
うそッ
ドプ
ドプ
ぽおお

精通もしてるって事は
んー…
これは逃げないとマズそうだね
どろお
おおお

少年達は一花が暴れないように
太ももまでしっかり押さえ込んだ
ちょっと待って!!
これ以上は流石にダメ!!
いい加減怒るよ!

少年は一花の恥部にむしゃぶりついた
はぁっ
はぁっ
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
ぺちゃる
ぺちゃる

そこは汚いから
はーっ
びくっ
びくっ
はーっ
びくっ
びくっ
ちゃる
ちゃる
やめた方が…
ダメだって

少年は一花の
言うことを無視し
膣から溢れ出る芳醇な
愛液を味わい続けた

うう
舌が
中で
暴れてるっ
んっ
んっ
びくっ
びくっ
びくっ
びくっ
びくっ

頭が痺れてきた…
んっ
びくっ
んっ
びく
びく
びくっ
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ

気は済んだ？
はい…これでお終い…
えっ…嘘…本気？
ビキ
ビキ
とろぉ…
一花の前に少年の巨大なペニスが現れた

いやいや
何してるの！
擦っちゃダメ！
いくら子〇もだからって
それは許さないよ！
ずり
ずり
ずり
犯罪だよキミ！

本当ダメ！
お願いだから聞いてよ!!
あっ…ちょっと！
ずり
ずり
ずり

そんなの
あぁ
ビクッ
入るわけ…
なっ…
ビクッ
ぽん

そんなっ…
ふーっ
ぬっぷ
挿入っちゃった…
ふーっ
子供のおち〇ちん…
ぬぷ
ぬぷ

ダメダメ！
抜いて！
君たちにはまだ早すぎるってば！
ぬっぷ
ぬっぷ
ぬっぷ

ダメッ!!
ドピュッ
ヒクヒク

そんな…
はーっ
はーっ
ぬっ
ニュオォ
中に出すなんて…
妊娠したらどうするのさ…

最低…
はーっ
はーっ
こんな事するなんて

放心状態の
一花にも構いなく
次の少年のビキビキの
イチモツが一花の前に現れる
ハッ！
ハッ！
シコ
シコ
シコ
ビキ
ビキ

今なら
まだ許すから…
ね？
やめようよ…
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ

ダメっ
止めるどころか
はーっ
はーっ
激しくっなって…
パン
パン
パン
パン
パン
パン
パン

中はダメッ
外にッー
っ…
ビクビク
ドピュウ

はーっ
はーっ
ぬぽん

また出した…
もう…
ドロ…

抵抗できない
ん…
ん…
力が抜けていく
どうして
パン
パン
パン
パン
ずっ
ちゅ
ずちゅっ

あっ
あっ
パン
パン
パン
パン
ずっちゅ
ずっちゅ

あぁっ!!
ビクビク
ドピュウ

三度少年の子種が
一花の膣内に
注がれてしまい
はーっ
はーっ
ドプ
ドプ
ぬぽん

その後も全員に気が済むまで
輪姦された一花は眠るように気絶した
はーっ
はーっ
ドロォォ
ドロ…

翌日
少年たちの住処らしき所で
一花は目を覚ました
ん～
コリ
コリ
くり
くり

もー…最悪な目覚めだよ
こんな事してたら嫌われちゃうぞ
ぐくっ
ぐくん
コリ
コリ
くり
くり

この子…私が乳首弱いの知ってて…
ぐくっ
んっ
くっ…
集中して狙ってるな
ぐくん
コリ
コリ
くり
くり

あれ？
何か変…
ふーっ
ふーっ
何かが込み上がってくる見たい
ゾク
ゾク
コリ
コリ
くり
くり

うそっ!!
!!
ンニュウウウウウ

どうして母乳が
あ…
あっ
それに体が
痺れるっ
ちゅぱ
ちゅぱ
ちゅぱ
ちゅぱ
ちゅぱ
ちゅぱ

私の体…
どうしちゃったんだろう
んっ
く…
なんか変な感じ…
レロ
レロ
レロ
レロ
ちゅぱ
ちゅぱ
ちゅぱ

負けちゃダメ
この快楽に溺れたらダメになる
ふーっ
ふーっ
レロ
レロ
レロ
レロ
ちゅぱ
ちゅぱ
ちゅぱ

母乳が出るってことは
まさか…妊娠！
ふーっ
ふーっ
ちゅぱ
ちゅぱ
ぺろ
ぺろ
ぺろ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ

そんな…
まずいよ…
もしそうだったら
女優は引退…
学校も卒業できなくなる
えー…こんな形で
辞めたくないよ
んっ
んっ
ちゅぱ
ちゅぱ
ぺろ
ぺろ
ぺろ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ

あっ
あっ
ちゅぱっ
ぐぽぐぽ
ぐぽぐぽ
ぐぽぐぽ

激しい動悸…
胸の高鳴り…悪寒
はーっ
はーっ
ビク
どくん
どくん
ビク
ビク
ビク
ビクビク
どろぉ
じわっ
どろ…
ビク
一花の体に何かが
起き始めていた

少年達は一花を
外に連れ出した
ひょっとして
このまま解放…？
そんな淡い期待は
すぐに打ち砕かれた
少年たちが極上の
メスを逃すはずがない
あっ
あっ
こす
こす
こす
こす
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ

さっきのは
何だったんだろう…
気持ちいいような…
嫌なような…
あっ
あっ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ

それよりも帰る方法を探さないと
あっ
皆が心配してるはず
あっ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ

あぁっ
ダメ
もうやめて
お願いだから
ん…
ん…
ぴく
ぴく
ぴく
ぴく
ぴく
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ずぽ
ずぽ
ずぽ

ビク
ビク
んぐっ
どっ
ぷっ

早く何とかしないと
このままじゃ身も心も危ない…
はーっ
はーっ
こす
こす
こす
こす
ドク
ドク
ドク

一花は力を振り絞って
少年たちを振り払い逃げ出した
今度は逃げ出さない
様にしっかりと
しかしあっさりと
捕まってしまい
再び押さえ
付けられてしまう

捕まっちゃった
やっぱそう簡単には逃してくれないか…
はーっ
もみ
もみ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
もみ
はーっ

同じ手はもう通用しないはず…
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
う～ん どうする…
ふーっ
もみ
もみ
もみ
ふーっ

この島に居ればいいんだけど
ふーっ
もみ
もみ
ぬちゃ
ぬちゃ
他に誰か
ぬちゃ
もみ
ふーっ

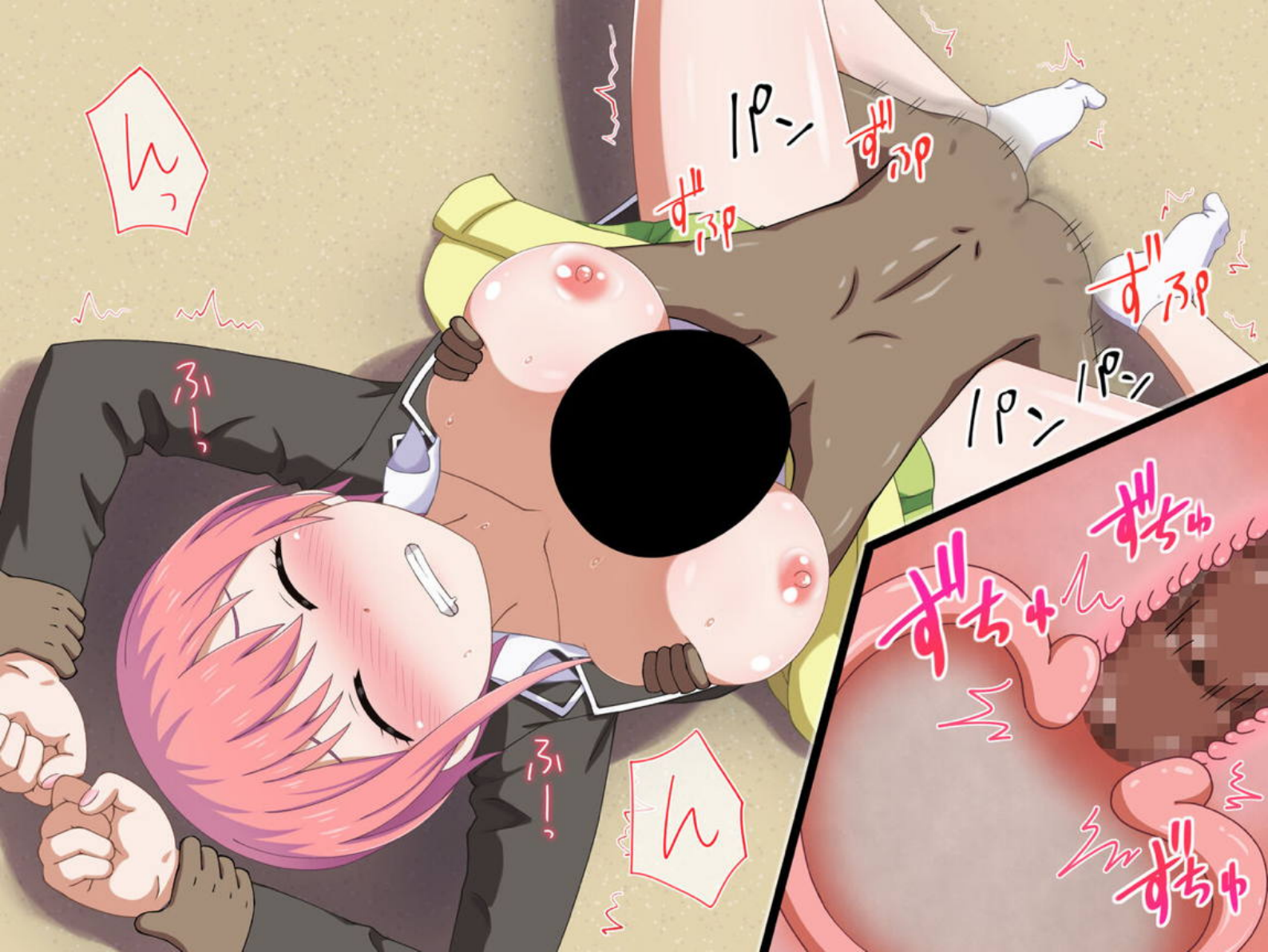
仮に人が居たとして
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
言葉が通じないんじゃ
はーっ
もみ
もみ
もみ
はーっ
どうしようも無いんだよね

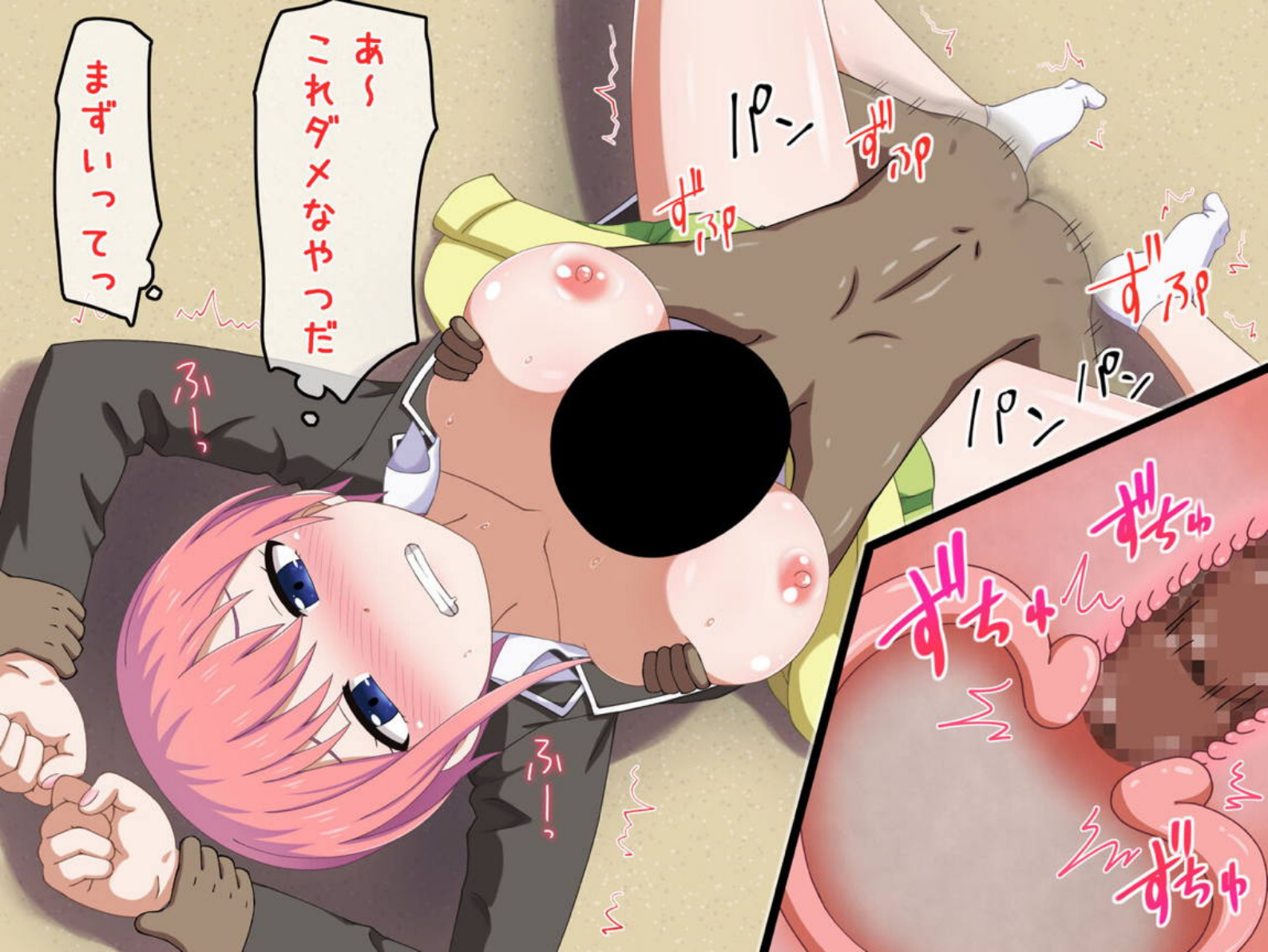
なーっ
ちゅう
びくっ
びく
ちゅう
びく
なーっ

解放されないと
ふーっ
ちゅう
その前に
この子たちから
ちゅう
ふーっ

母乳が出てる
あっ
ちゅる
ちゅる
あっまた
あっ

そんなに美味しいの？
ちゅる
ちゅる
はーっ
はーっ
私のおっぱい


ぱっ
ぱン
ずぷ
ずぷ
ずぷ
ぱン
ぱン
ふーっ
ふーっ
ん
ずちゅ
ずちゅ
ずちゅ


あ～
これダメなやつだ
まずいってっ
ふーっ
ふーっ
パン
ずぷ
ずぷ
ずぷ
パン
パン
ずちゅ
ずちゅ
ずちゅ

こんなにっ
奥突かれたらっ
気持ちっいいにっ
決まってる
パン
ずぷ
ずぷ
ずぷ
パン
パン
パン
あっ
はーっ
はーっ
あっ
はーっ
ずちゅ
ずちゅ
ずちゅ

ぎゅっ!!
どぷゅっ
ぶく
ぶく
ぶく
ぶく
ドプドプ
ドプ

少年は一花が自分のメスだと言わんばかりにしっかりとしがみ付き
子宮に直接その濃厚な子種を流し込んだ
ひく
はーっ
ドク
ドクン

その後も一花は
日が暮れるまで犯され続け

夜になり住処に帰っても尚
はーっ
はーっ
シコ
シコ
シコ
シコ
ビキ
ビキ

少年達は
休むこともなく
一花と代わる代わる
交わり続けた
あっ
あっ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ

逃げ出そうとした罰
一花が我々のメスだと分からせるために
んっ
んっ
パン
パン
パン
パン
パン
パン
パン

んんん…
ビク
ビク
ビク

一花は抵抗
する事もなく
半ば諦めも有りっつ

ありのままの感情を
受け入れ始めていた
ドロ…

翌日、少年たちに襲われることもなく
一花はここに来て初めて平穏な朝を迎えた
焦っても仕方ないし
とりあえず無事にここから出る方法を考えよう
この子たちもそんなに害は無いし
逃げたりしなければ無理に
押さえつけたりしないみたいだね
そういえばここに来て何も食べてないな
それなのにお腹が空いてないなんて…どういう事だろう…
そんな疑問を持ちつつもひとまず食料を探しながら島を調べる

その間も少年たちは
一花から目を離さない
探索中少年に押し倒され
あっ
シコ シコ
シコ
あっ
シコ

あーもうやっぱり
こうなっちゃうか
ゆっくり探索
できると思ったけど
ふぃー
ふぃー
ぷるん
ぷるん
すっちゃ
すっちゃ
すっちゃ
ぬるぷ
ぬるぷ
ぬるぷ

びく
んっ
んっ
びく
ぷるん
ぷるん
ずっちゅ
ぬぷ
ずっちゅ
ぬぷ
ずっちゅ
ぬぷ
びく
びく
びく

あっ…
びくっ
びくっ
どぷ
どぷ
びく
ドッ
ピュウ

ベと
ベと
ねとぉ

ひとまず無事に探索を終えた

とりあえず猛獣はいないみたいだけど
虫とか蛇は怖いから夜は危険

他に人も住んでないみたいだし

この子たちに頼るしかなさそうだね…

割り切って考えるしか無いか

船かヘリでも通り掛かればいいけど
それまでの辛抱

今日も何も起こらず
みんなごめんね
私も帰りたいんだけど
ん
ん
シコ
シコ
シコ
シコ
ぷるん
ぷるん
すっちゃ
すっちゃ
すっちゃ
ぬぷ
ぬぷ
ぬぷ

もうしばらく
無理そうかも
ふー
ふー
早く船が通って
くれればいいんだけど
ぷるん
ぷるん
すっちゃ
すっちゃ
すっちゃ
ぬるぷ
ぬるぷ
ぬるぷ

その間はこの子達と
過ごさなくちゃ…
あっ
あっ
ぷるん
ぷるん
すりすり
すりすり
すりすり
ぬるぬる
ぬるぬる
ぬるぬる

あ〜〜〜
びくっ
びくっ
びくっ
ドッ
ピュウ

最初は不安だったが
徐々にここでの暮らしに
適応しはじめた一花
はーっ
はーっ
ねとぉ
ドロ…

えーっそこにも挿入れちゃうか…
どんな感じなんだろう
ビキ
ビキ
ビキ
ビキ
ちゅっ
ちゅっ
ちゃる
ちゃる

一花は期待と
不安で戸惑っていた
しかし少年たちは
止まらない
ぬぷ
ぬぷ
ぬぷ
ずちゅ
ずちゅ
あぁっ
びくっ
びくっ

本当に
あっ
入っちゃうなんて
あっ
ずちゅ
ぬるぅ
ぬるぅ
ぬるぅ
ずちゅ

すごいっ
んっ
んっ
びくっ
びく
気持ちいいっ
びく
びくっ
こんな快感があったなんて
ずちゅ
ぬぷ
ぬぷ
ぬぷ
ずちゅ

あぁあぁあぁ

ああっ
はーっ
お尻熱いっ
はーっ
たくさん出てるっ
どぴ
ろぉ〜
おお

これがアOルセックスなんだね
はーっ
はーっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゃる
ちゃる
クセになっちゃいそう

島に来て数日
この日は海が見える場所で
発情した一花と少年たち

あっ船！
船だ！
ぬちゃ
ぬちゃ
ずぷっ
ずぷっ
私帰れるよ！
待ってて皆！
ぢゅる
ぢゅる
ぢゅる

あっちょっと待って
ぬちゃ
ぬちゃ
あっ
あっ
あっ
今はっお願いっ！
ずぷっ
ずぷっ
ちゅる
ちゅる
ちゅる

あっ
すごっっ
パン
パン
パン
パン
パン
パン
パン
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
ふーっ
ふーっ
イク
イクッ

ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ドピュ
ドピュ

はーっ
はーっ
こす
こす
そんなあ…船…
イッちゃった
まあ…いっか

帰るチャンスよりも目先の
快楽を優先してしまった
しかし彼女に後悔の念など無い

それからも昼夜
場所を問わず
少年たちと
交尾をし続け
ん
ん
こす
こす
こす
こす
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ

あっ気持ちいいっ…
んっ
んっ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ

子〇もに犯されてこんなに感じるなんて
私も変態になっちゃったな
あっ
あっ
びくっ
びくっ
びくっ
びくっ
ずぷ
ずぷ
ずぷ
ぬちゅ
ぬちゅ
ぬちゅ
ぬちゅ

ああっ!!
ビク
ビク
ぴゅう
どっ
ぷしゅ

こんなに大っきいのでずっと突かれてたら
誰だってそうなっちゃうよね
べとおおお
ドク
ドク
ドク

脳天を貫くほどの刺激臭に
一花はさらに欲情した
あっ
あっ
あっ
ぬちゃ
ぬちゃ
ずぷっ
ずぷっ
ちゅる
ちゅる
ちゅる

んっ
んっ
んっ
ぬちゃ
ぬちゃ
ずぷっ
ずぷっ
ちゅる
ちゅる
ちゅる

んっ
んっ
んっ
ぬちゃ
ぬちゃ
ずぷっ
ずぷっ
ちゅる
ちゅる
ちゅる

ヤバいヤバいッ!!
パン
パン
パン

ビクッ
どぴゅっ
ビクッ
ビクッ
ビク
ビク
ドプ
ドプ

三か所で同時に射精を受け
快楽に浸る一花
こす
こす
ねと…
ぢゅる
ぢゅる
ぢゅる

私何か大事なことを
忘れているような…
何だっけな…
この快楽より
大事なことなんて
あったかな…
いや…ないない
ふーっ
ふーっ
ぢゅる
ぢゅる
ぢゅる

性欲にまみれた一花は
最早別人と化した
大切な人たちの存在を忘れ
もうそれに気づく事もない
ふーっ
ふーっ
ぢゅる
ぢゅる
ぢゅる